

田ハズいぞいすごい

絶滅危惧の魚生息

徳島の農家と研究者が連携 伝統農法に誇り

徳島県鳴門市の農家と徳島大学の研究者が、地元ハズ田周辺に生息する絶滅危惧（きげん）種の魚を守る活動に取り組んでいる。農家は古くから続く減農薬栽培の誇りを再確認し、子どもや消費者には環境にもたらす効果を伝え、地域ぐるみの環境保全を目指す。



絶滅危惧種の魚が生息する環境づくりを目指す田代さん（右）と斎藤さん（徳島県鳴門市）

活動の中核となってい
る魚は、環境省のレッド
リストにもある「カワバ
タモロコ」。県内では絶
滅したと思われるいた
が、4年前に市内ハズ田

周辺の水路で見つかった
のを契機に徳島大学の田
代優秋特任助教、同市大
津町のレンコン農家・斎
藤倫子さん（67）らが協

力し保全活動を始めた。
地元のレンコン栽培
は、古くから生育初期の
アブラムシ以外はほとん
ど防除をしない農法が定
着している。そのため地
元農家には、従来農法を
継続しながら畑と用水路
をつなぐ魚道の設置を呼
び掛けている。

魚道を設けた斎藤さん
は「安心して食べられる
レンコンを作っていると
実感でき、農家としての
誇りを再確認できる」と

強調する。
徳島大学の田代さんは
「カワバタモロコは環境
の良さを示すバロメータ
ー。住民自らが取り組む
環境保全のきっかけをつ
くりたい」と農家や子ど
も、消費者を巻き込んだ

イベントを定期的に開
く。JA大津やJA全農
とくしま、県の協力を得
ながら水路の泥上げやハ
ズ田の草引きなどの体験
を重ね、住民の手による
水質改善、農地保全の定
着を目指す。